

本稿は、5月20～21日に行われた「自治労連第63回中央委員会」での中央委員発言について、加筆・修正したものです。

## 長時間労働を改善させる“見える変化”を起こす 現場からの「いのち守る33キャンペーン」 さんさん

### 京都自治労連

コロナ感染拡大から3年目に入り、テレビでは以前のような感染への不安や、死と隣合わせとの恐怖が薄れ、新型コロナが終息してきているかのような空気があります。しかし、終息はしていません。

京都市保健所の本体職員の時間外勤務は、今年第6波のもと、1月は平均で83時間、2月は77時間と、過労死ラインを超えていました。最高は169時間。職員の半数が年間720時間超えの超勤をしていました。今も京都市保健所は、応援職員を約170人も入れて対応しています。

職員は毎日、葛藤しながら働いています。「自分の関係者もコロナで亡くなった。医療につなごうとして、門前払いにされたこともある。本当に苦しんでいる人に医療が届いているのかとむなしく感じる。こんなのがいつまで続くのか。保健師を辞めて退職しようかと悩む」「先が見えない。応援に行っても通常業務はあり、負担は多くなるだけ。丁寧に（市民の）支援（を）していきたいが、必要最低限の業務をこなすことで精いっぱい。もっと保健師が専門職としての力を発揮できるようにして」専門職としての使命感と、思うようにその力を発揮できない悩みや苦しみが、現場で働く職員からあふれてきます。

一方、京都市ではこの間、感染症業務の業務委託化がさらに進み、コロナ陽性者の健康観察もどんどん機械的にこなされるようになり、本来の“健康観察”からほど遠いものにされていっています。そして厚生労働省は4月、業務委託化をもっと進めよという通知を各自治体に出しました。本当に目を疑う通知文でした。

### 33条改正で職員のいのちと健康を守って

昨年の暮れ、保健師の組合員さんから京都市職労の委員長に、「これ以上、来年度も保健所で働き続けることはできない。異動をしたい」とSOSのLINEが入りました。異動はできても4月です。私は、その組合員さんが仕事はもちろん、受験も近い子どもさんや家庭のことで心や体を壊してしまわれぬか、とてもひやひやしていましたが、この4月に保健所から別の職場に異動され、ホッとしたばかりでした。

いつ、だれが、心を病み、体を壊して倒れるかわからない。この状況の中で、「業務委託」としか言わない国に怒りを覚えました。

公務員は、労働基準法第33条によって、災害や公務のための臨時の必要がある場合、際限なく働かせられても合法です。そのため、

京都市では一昨年度、年1500時間を超える時間外労働を生み出しましたが、市長以下、だれも責任を取っていません。

今、国がすべきは、33条を改正し、公務員であっても、いかなる理由があろうとも、時間外労働に上限を設ける仕組みをつくり、職員のいのちと健康を守ること。そして、保健所、保健師が本来の役割を發揮できるように職員を抜本的に増員することです。

自治労連本部から全国の仲間に提起された「職員をまもる署名」は、まさにこの要求を国に突きつけるもので、とてもわかりやすく、成功させたい署名です。しかし、職場の多くの組合員さんにとっては、日々忙しい中でさまざまな種類の署名が提起されるため、この「職員をまもる署名」もたくさんあるうちのひとつとなり、広がりきらないことにどうしていいか、悩んでいました。

### 京都・大阪府職労の仲間と思いを共有

そうした中で、この間、月一回の頻度で交流ミーティングをもっている大阪府職労と京都府職労の仲間とで、本気で長時間労働を改善させる、“見える変化”を起こす運動をしたい！との思いを共有し、「いのちを守る33キャンペーン」に取り組むことにしました。「さんさん」は数字の33で、労基法33条の改正と署名目標33万筆を掛け合わせたものです。このキャンペーンは、コミュニティオーガナイズイングの手法を用い、長時間勤務で苦しむ当事者自身が声を上げ、苦しい実態をさまざまな人と共有し、共感しながら、一人ひとりが励まされ、互いに手をつなぐことで物事を動かす力の集合体を生み出していくといった戦術を組み立てて進めていく運動です。そのツールの一つとして独自のオンライン署名も

集めています。先日も署名のスタート集会を開き、保健所職員だけでなく事務職の仲間5人が過酷な長時間労働の実態を自ら語り、それを聞いた仲間が、「現状を一緒に変えたい」と励まされ、私がつくったはずの「推進ニュース」を私より早くいろいろなグループラインで流してくれました。集会も単組や個人のSNSを活用して発信し、オンライン署名もはじめたばかりですが、4500筆を超えました。

いのちを守る33キャンペーンの成功が「職員をまもる署名」の成功にもつながり、目に見える変化が勝ち取れる！変えるために全力で奮闘する決意をのべて私の発言とします。